

〔第8回〕

# GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

## 老化に伴う睡眠変化の調節機構の解明

統合生理学研究部

佐藤 亜希子 副部長

2022年10月18日(火) 15時00分～

第1研究棟2階大会議室

睡眠は生物に共通した生理現象であり、睡眠変化が身体機能に及ぼす影響も大きい。例えば、歳をとるとヒトを含む哺乳動物では中途覚醒の頻度が増加する睡眠の断片化が認められる。睡眠の断片化は記憶能や代謝能そして免疫能の低下につながることで報告されている。また、こういった微細な睡眠変化は様々な老化関連神経変性疾患の発症前段階で認められる。したがって、日常生活に支障をきたしうる睡眠変化の予防や改善は健康寿命の延伸につながる重要な課題である、と考えられる。一方、睡眠の断片化のメカニズムとしては睡眠の深度の低下や脳の神経回路異常の関与が示唆されているが、その詳細は不明である。そこで本研究課題では、現在、以下の2つの項目について研究を進めていくことで睡眠の断片化機構を明らかにしていこうとしている：1) 睡眠断片化に関与する脳内の分子制御機構の解明、2) 年齢や睡眠変化に伴い変動する液性因子の探索。本発表ではこれまでの進捗について報告する。

座長：口腔疾患研究部 四釜洋介 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)